

広報

カトダ



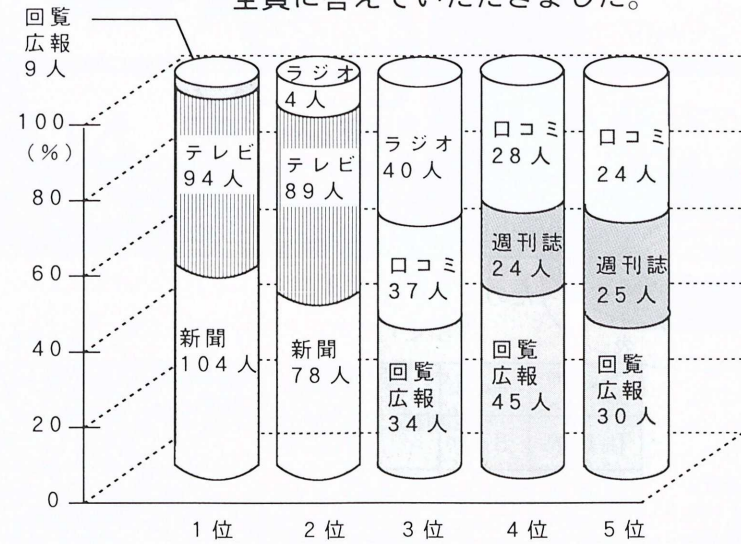
1995

6月

No.290

Q1 あなたの生活のなかで、情報収集の手段として優先順位をつけるとしたならば、どのような順位になりますか。(全13項目より選択)

全員に答えていただきました。

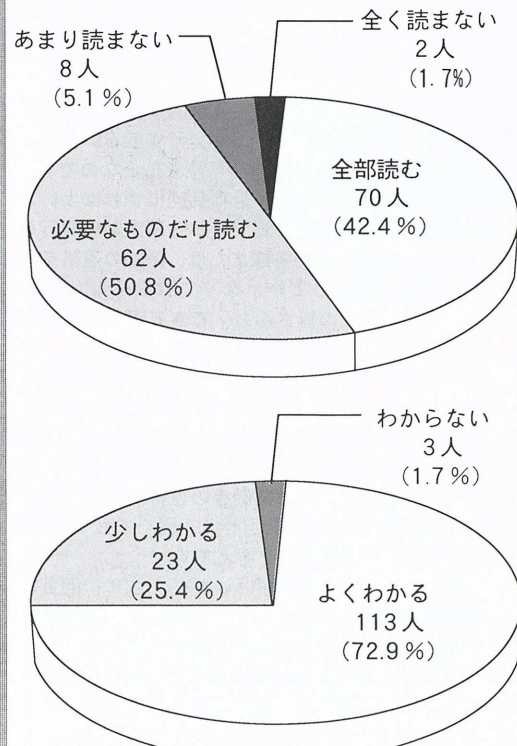


3位までは、広く社会情勢を知る意味で、新聞、テレビなどのマスメディアが上位を占めています。直接暮らしにかかわる情報の収集として、やはり、回覧・広報、ロコミの順番となりました。さて、回覧、広報、その他のものについて、ひとつずつスポットを当ててみることにしましょう。

回覧

回覧の発行日は、毎週火、金曜日の2回行っています。回覧の種類としては、行事のお知らせ、パンフレット、住民移動通知(組長さん宛)、水道料金の納付書関係などに分類できます。それでは、この回覧について皆さんにお聞きしました。

Q2 あなたは、回覧を読みますか。また、読んで内容は理解できますか。



全部読む、必要なものだけ読むと答えた人は、全体の93.2%いました。また、内容はよくわかると答えた人が72.9%、少しわかると答えた人25.4%と、合計して98.3%の人が理解できていると回答しました。

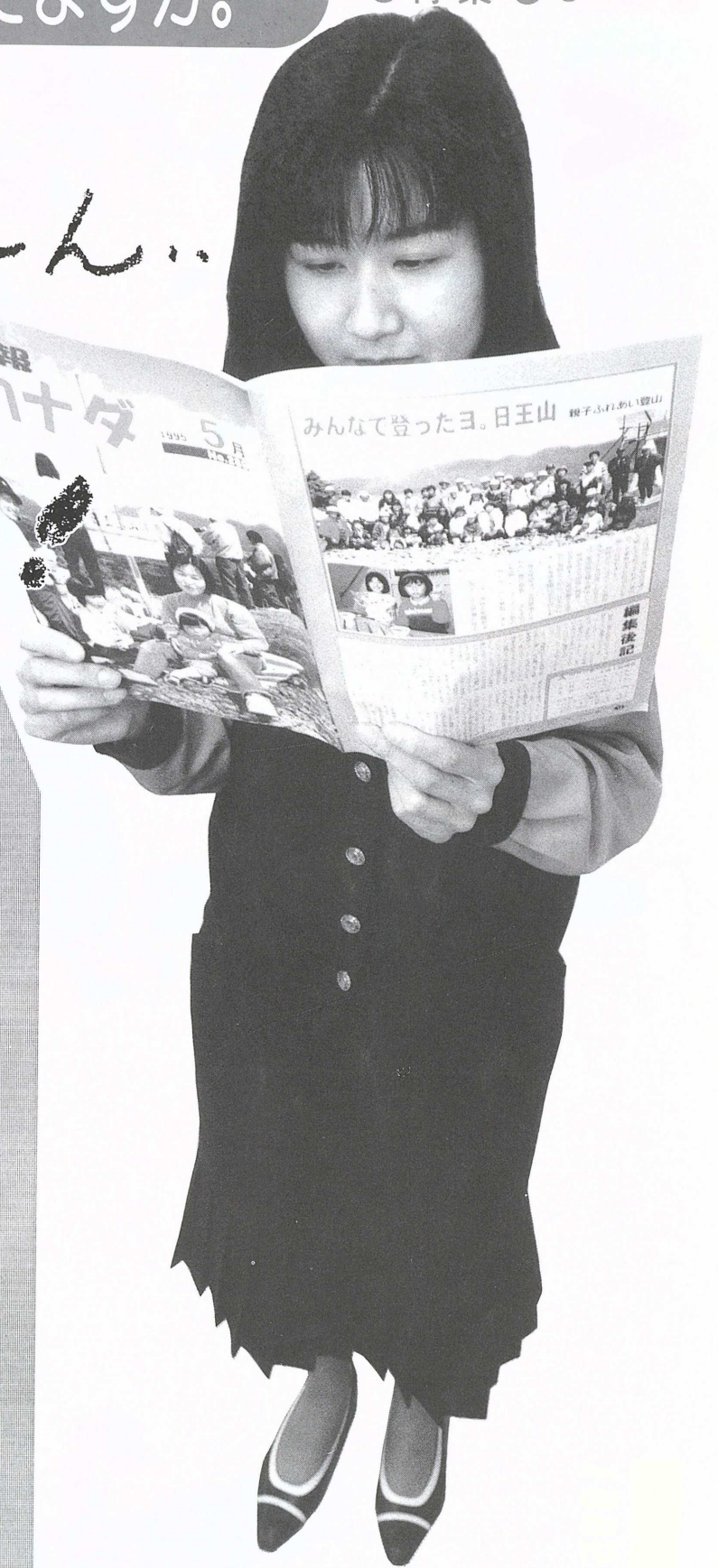
内容のわかりにくい場合はどのようにしますか。という質問を行いました。半数以上の人、わからない場合は、直接役場に問い合わせをすると答えました。

役場の各係別に同じ内容の、町民に回覧は読まれ理解されていると思いますか。という質問を行った結果、

- ・十分理解されている 4係
- ・内容によっては理解されている 11係
- ・自信はない 2係
- ・わからない 2係

という結果が出ました。「内容によっては……」の答えが多く、これは、行政用語などを多用した文体からのものと、一枚の紙面上では詳細に説明できないためのものではないでしょうか。

エッ? ふいん...
そう
だったの!



私たちは、新聞やテレビなど多くのメディアからの情報を上手に選択しながら、暮らしのなかに活かしています。さて、その中で私たちの身近なメディアとして、役場が発信しているお知らせなどの、回覧・広報は、町民の皆さんの暮らしにうまく活用されているのでしょうか。また、スムーズに伝わっているのでしょうか。アンケート調査の集計結果から、現状分析とその問題点、そして将来のまちの情報体制の確立を、探ってみることにしました。

このアンケート調査は、3月上旬から中旬にかけて、情報の受け手となる皆さんの代表として、町の99組279人の内、142人の組長さん、班長さん達と、発信元の役場職員105人の内、86人に対して行いました。